

韓日両語の「反転語」考

尹相實*・城田俊**

〈要旨〉

「教える：教わる」のように、表す事柄は同じだが、登場者の役柄に転換が起こるものを「反転語」という。反転語には、登場者の主役相手役・脇役における転換のタイプによって、主・相転換と主脇転換と相脇転換がある。主相転換とは、「支配する：従属する」に見られるように、(a)(出だし語の主役が(b)の相手役に、(a)の相手役が、(b)の主役に転換するものをいい、主脇転換とは、「預ける：預かる」に見られるように、(a)(出だし語の主役が(b)の脇役に、(a)の脇役が(b)の主役に転換するものをいう。また、相脇転換とは、「掛ける：覆う」に見られるように、(a)(出だし語の相手役が(b)の脇役に、(a)の脇役が(b)の相手役に転換するものをいう。

反転の縁で結ばれる2語が共に同一の格助詞をとる場合、例えば「上まわる：下まわる」のように、AがBヲがBがAヲに変わる場合、その反転を対称型と呼ぶ。また、反転の縁で結ばれる2語が一部で異なる格助詞をとる場合、例えば、「支配する：従属する」のように、AがBヲがBがAニに変わる場合、その反転を非対称型と呼ぶ。

かくして、主相転換の対称型と非対称型、主脇転換の対称型と非対称型、相脇転換の非対称型のタイプが認められることについて述べ、韓国語の反転語との比較考察を行なった。その結果は次のようにまとめられる。

・役柄の転換のタイプが同じであっても、役柄の名詞に付く格助詞の種類と数は若干異なる。また日本語では対称型の反転語が、韓国語では非対称型の反転語になる場合がある。

・意味的に対応する動詞の反転語をめぐって、日本語では派生関係にある動詞の対が反転語を作るのに対して、韓国語ではそうでない場合がある。

・両語において役柄の転換が起こることでは共通している、例えば韓国語の「달다달다」「싸우다싸우다」のように、同形の動詞が使われる場合がある。

論文分野：語彙・用語、対照研究

キーワード：反転語、主役・相手役・脇役の転換、受動態、格助詞

I. 反転語とは

表す事柄は同じだが、登場者の役柄に転換が起こるものを「反転語」という。例えば、次の例を見よう。

1(a) あの看護師が日々の手当での仕方を私に教えた。

(b) 私が日々の手当での仕方をあの看護師に教わった。

* 明知大学校 日語日文学科 教授、日本語学(第1著者)

** 獨協大学 名誉教授、日本語学

1(a)(b)共に、知識や教科(技術)が学び手の身に付くように教え手から学び手へ移されることを表す。事柄はA.「教え手」、B.「教科」、C.「学び手」という3者が揃った時は成立する。この3者が(a)(b)の表わす事柄の登場者である。ただし、(a)ではAがガ格(主題化してハで表わされることがある。)、Bがヲ格、Cがニ格に立つが、(b)ではCがガ格、Bがヲ格、Aがニ格ないしカラ格に立つ。(a)(b)は一見意味が違うように感じられるが、登場者が立つ格座の違いによってそれは醸成される。

ガ格、ヲ格、ニ格ないしカラ格を支配する動詞において、ガ格に立つ語を第1補語、ヲ格に立つ語を第2補語、ニ格ないしカラ格に立つ語を第3補語と定め、第1補語になるものを主役として第1位、第2補語になるものを相手役として第2位、第3補語になるものを脇役として第3位を与えると、(a)「教える」の登場者の格付けは左から右への並びでABCとなり、(b)「教わる」のそれはCBAとなる。Bが第2補語であることは変わらないが、Aは第1補語から第3補語に、Cは第3補語から第1補語に転換する。記号を用いて書けば、ABC→CBA、123→321となる。かくして(a)「教える」(b)「教わる」は反転語である(表1)。

表1 「教える」「教わる」の登場者と役柄

	登場者	教え手	教科	学び手
(a) 教える	格助詞	ガ	ヲ	ニ
	文での役割	第1補語	第2補語	第3補語
	役柄	主役	相手役	脇役
(b) 教わる	格助詞	ニ/カラ	ヲ	ガ
	文での役割	第3補語	第2補語	第1補語
	役柄	脇役	相手役	主役

反転語は出だし語に「反転の縁」で結ばれる。「反転の縁」を[反転]と略記し、(a)「教える」を出だし語にしての(b)「教わる」の関係を簡略に表記すると、[反転]教える=教わると表記される。

登場者の格付けは、(a)「教える」でABC、(b)「教わる」でCBAであり、役柄がACで転換することを記したが、それを「反転の縁」の表記に反映させると、[反転CBA]教える(ABC)=教わるとなる。これは、「教える」という語において登場者はABCという格付けを持つが、「教わる」という語においてはCBAという格付けへ転換することを表す。

ところで、反転語は動詞に限らない。名詞、イ形容詞、ナ形容詞(形容動詞)も用い方により反転語たり得る。

2(a) 花子が太郎の妻になる。

(b) 太郎が花子の夫になる。

3(a) 花子が太郎より若い。

(b) 太郎が花子より年上だ。

4(a) 食事の後にけんかをした。

(b) けんかの前に食事をした。

2(a)、(b)とも表わす事柄は同一である。しかし、(a)ではAがBノ…、(b)ではBがAノ…のかたちで用いられる。3(a)ではAがBヨリ…、(b)ではBがAヨリ…のかたちで用いられる。

兄・弟、姉・妹、おじ・おば、おい・めいなどの親族名称、前・後、左・右などの関係名称はみな反転の関係に立つ。また、反転関係は必ずしも同一の品詞内でおこるわけではない。2(a)「若い」はイ形容詞、(b)「年上(だ)」は通常名詞として理解されている。1)「若い」「年上(だ)」の例でわかる通り、反義語²⁾も用い方により反転語たり得、反転語と反義語は一部重なる。

II. 反転の種類(1)-主・相転換、主・脇転換、相・脇転換

反転には、主・相^{しゅ あい}転換と主・脇^{わき}転換と相・脇転換がある。

1. 主・相転換

主・相転換とは、(a)(出だし語)の主役が(b)の相手役に、(a)の相手役が(b)の主役に転換するものをいう。ABがBAに転換するのでAB-BA転換と呼んでもよい。12・21転換という名付けもあり得る。純粋な反転である。AB→BA;12→21。

- 5(a) アメリカが日本を経済的に支配した。
 (b) 日本がアメリカに経済的に従属した。

(a)「支配する」「(b)「従属する」は共に、A.「強力なるもの(支配者)」とB.「それに支配されるもの(従属者)」という2登場者を持つ。(a)はAをガ格に、Bをヲ格に立て、AがBを勢力下に置き、治めることを示し、(b)はBをガ格に、Aをニ格に立て、BがAの勢力下に置かれ、治められることを示す。表わす事柄は同じであるが、登場者の役柄が(a)(b)で異なる。(a)ではAが主役、Bが相手役であり、登場者の格付けはAB(12)である。それに対し、(b)ではBが主役、Aが相手役であり、格付けはBA(21)である。AB→BAの反転となり、主・相転換を示す(表2)。

2. 主・脇転換

主・脇転換とは、(a)(出だし語)の主役が(b)の脇役に、(a)の脇役に(b)の主役に転換するものをいう。ABCがCBAに転換するのでABC-CBA転換と呼んでもよい。123・321転換という名付けもあり得る。相手役(B)は役柄を変えず、それを軸に主役(A)・脇役(C)が相互に入れ替る。よって、相手役不動反転と呼んでもよい。ABC→CBA;123→321。

- 6(a) 花子が太郎に子供を預けた。
 (b) 太郎が花子から子供を預かった。

1) 興味深いのは動詞の反転語である。以下、動詞の反転語の記述を主に行なう。
 2) 反義語については尹・城田(2008)を参照。

(a)「預ける」(b)「預かる」は共に、A、「依頼者」、B、「保管対象」、C、「保管者」の3登場者を持つ。(a)はAをガ格に、Bをヲ格に、Cをニ格に立て、AがBをCに保管するよう依頼することを表わし、(b)はCをガ格に、Bをヲ格に、Aをカラ格に立て、CがBをAから保管するよう依頼されることを表わす。(a)ではAが主役、Bが相手役、Cが脇役であり、登場者の格付けはABC(123)となる。それに対し、(b)ではBは変わらず相手役であるが、Cが主役、Aが脇役となり、格付けはCBA(321)となる。両者の反転の様子はBは不動でそれを軸にACがCAと変わり、ABC(123)→CBA(321)となり、主・脇転換の様相を呈する(表3)。前掲の1(a)「教える」(b)「教わる」の反転も主・脇転換の例となる(表1)。

3. 相・脇転換

相・脇転換とは、(a)(出し語)の相手役が(b)の脇役に、(a)の脇役が(b)の相手役に転換するものをいう。ABCがACBに転換するのでABC・ACB転換と呼んでもよい。123・132転換という名付けもあり得る。主役(A)は役柄を変えず、相手役(B)・脇役(C)が相互に入れ替る。よって、主役不動反転と呼んでもよい。ABC→ACB；123→132。

7(a) 犯人がシーツを死体に掛けたことは確かだ。

(b) 犯人が死体をシーツで覆ったことは確かだ。

(a)「掛ける」(b)「覆う」は共に、A、「置く人」、B、「上/外にあるもの」、C、「下/内にあるもの」という3登場者を持つ。(a)はAをガ格に、Bをヲ格に、Cをニ格に立て、AがBをCの上に置き、かぶせることを表わし、(b)はAをガ格に、Cをヲ格に、Bをデ格に立て、同じく、AがBをCの上に置き、かぶせることを表わす。(a)(b)共にAが主役。ただし、(a)ではBが相手役、Cが脇役であり、登場者の格付けはABC(123)である。それに対し、(b)ではCが相手役、Bが脇役であり、格付けはACB(132)である。反転の様子はA(主役)が不動で、BCがCBに変わり、相・脇転換する(表4)。

表2 「支配する」「従属する」の登場者と役柄-主・相転換の例

	登場者	A.支配者	B.従属者
(a) 支配する	格助詞	ガ	ヲ
	文での役割	第1補語	第2補語
	役柄	主役	相手役
(b) 従属する	格助詞	ニ	ガ
	文での役割	第2補語	第1補語
	役柄	相手役	主役

表3 「預ける」「預かる」の登場者と役柄-主・脇転換の例

	登場者	A.依頼者	B.保管対象	C.保管者
(a) 預ける	格助詞	ガ	ヲ	ニ
	文での役割	第1補語	第2補語	第3補語
	役柄	主役	相手役	脇役
(b) 預かる	格助詞	カラ	ヲ	ガ
	文での役割	第3補語	第2補語	第1補語
	役柄	脇役	相手役	主役

表4 「掛ける」「覆う」の登場者と役柄-相・脇転換の例

	登場者	A.置く人	B.上/外にあるもの	C.下/内にあるもの
(a) 掛ける	格助詞	ガ	ヲ	ニ
	文での役割	第1補語	第2補語	第3補語
	役柄	主役	相手役	脇役
(b) 覆う	格助詞	ガ	デ	ヲ
	文での役割	第1補語	第3補語	第2補語
	役柄	主役	脇役	相手役

III. 反転の種類(2)-対称型と非対称型

反転の縁で結ばれる2語が共に同一の格助詞をとる場合、その反転を対称型と呼ぶ。例えば、AガBヲがBガAヲに変わる場合、この反転は対称型である。

表5 「上まわる」「下まわる」の登場者と役柄-対称型の例

	登場者	A.多いもの	B.少ないもの
(a) 上まわる	格助詞	ガ	ヲ
	文での役割	第1補語	第2補語
	役柄	主役	相手役
(b) 下まわる	格助詞	ヲ	ガ
	文での役割	第2補語	第1補語
	役柄	相手役	主役

反転の縁で結ばれる2語が一部で異なる格助詞をとる場合、その反転を非対称型と呼ぶ。例えば、AガBヲがBガAニに変わる場合、その反転は非対称型である。

8(a) 欲望の増大が経済力の増大を上まわった。

(b) 経済力の増大が欲望の増大を下まわった。

9(a) アメリカが日本を経済的に支配した。

(b) 日本がアメリカに経済的に従属した。

8(a)「上まわる」ではAガBヲ、(b)「下まわる」ではBガAヲとなる(表5)。同一の格助詞が反復的に出現する。このような反転のタイプを対称型と呼ぶ。9(a)「支配する」ではAガBヲ、(b)「従属する」ではBガAニとなる(表2)。格助詞はガヲ・ガニとなり、一部で異なる。このような反転のタイプが非対称型である。「預ける」「預かる」(表3)もガヲニ・ガヲカラとなり、「掛ける」「覆う」(表4)もガヲニ・ガヲデとなり、同じく非対称型である。

(a)「教える」はAガBヲCニ、(b)「教わる」でCガBヲAニ/カラとなる。このように一部で格助詞にバリエーションがあるものの存在は対称・非対称という格助詞の反復・非反復による分類を複雑化させる恐れがある。このような場合、バリエーションを分解し、一つに固定すれば分類はしやすくなる。例えば、「教わる」の場合(イ)CガBヲAニと(ロ)CガBヲAカラと2語に分解し、(イ)の場合(a)(b)の反転はガヲニ・ガヲニで対称型に属し、(ロ)の場合はガヲニ・ガヲカラで非対称型に属すると考えることにすれば、分類は整然と行なうことができる。

8(a)「上まわる」ではAガBヲ、(b)「下まわる」ではBガAヲとなるので、この反転の具体的タイプはガヲ・ガヲ型と呼ぶことにする。

9(a)「支配する」ではAガBヲ、(b)「従属する」ではBガAニとなるので、この反転の具体的タイプはガヲ・ガニ型と呼ぶことにする。

6(a)「預ける」ではAガBヲCニ、(b)「預かる」ではCガBヲAカラとなるので、この反転の具体的タイプはガヲニ・ガヲカラ型と呼ぶことにする。

このように、登場者の格付けの並び方に従っての格助詞の列により、反転の具体的タイプを記述し、名付けることができる。

IV. 主・相転換

1. 対称型

1.1 ガヲ・ガヲ型 (AガBヲ → BガAヲ)

AガBヲ→BガAヲという反転のタイプがある。「覆う」「被る」(表6)は「上まわる」「下まわる」(表5)と同様このタイプに属する。

- 10(a) 深い雪が畑を覆っていた。
 (b) 畑が深い雪を被っていた。

表6「覆う」「被る」の支配図

	A. 重ねられるもの	B. 上面・外側を持つもの
(a) 覆う	ガ	ヲ
(b) 被る	ヲ	ガ

1.2 ガニ・ガニ型 (AガBニ → BガAニ)

AガBニ→BガAニという反転のタイプがある。「先立つ」「遅れる」はこのタイプに属する(表7)。

- 11(a) 少女は少年に少し先立って歩いた。³⁾
 (b) 少年は少女に少し遅れて歩いた。

表7 「先立つ」「遅れる」の支配図

	A. 先行者	B. 後行者
(a) 先立つ	ガ	ニ
(b) 遅れる	ニ	ガ

1.3 ガニデ・ガニデ型 (AガBニCデ → BガAニCデ)

AガBニCデ → BガAニCデという反転がある。基本的にはAガBニ → BガAニという反転であり、Cデは付加されたものにすぎない(表8)。⁴⁾このように、脇役が役柄を変えずに(当然格助詞も変えずに)反転に参加するものを付加反転と呼ぶ。不変の脇役を持たない反転(例えばAガBニ → BガAニ)は純粋反転と呼ぶ。

- 12(a) 天然の調味料は化学調味料に風味で勝る/すぐれる。
 (b) 化学調味料は天然の調味料に風味で劣る。

表8 「勝る・すぐれる」「劣る」の支配図

	A. 優越者	B. 劣等者	C. 比較場面
(a) 勝る/すぐれる	ガ	ニ	デ
(b) 劣る	ニ	ガ	

類例としては次のような例が挙げられる。

- 13(a) 川田氏は飯田氏に大事な選挙で勝った。
 (b) 飯田氏は川田氏に大事な選挙で負けた。

3) ニはヨリ、カラと交替できる。

少女は少年より/から少し先立って歩いた。少年は少女より/から少し遅れて歩いた。

4) デはニ於イテと交替し得る。デは話し言葉的、ニ於テは書き言葉的である。ニはヨリと交替し得る。

(a) 天然の調味料は風味に於いて化学調味料に/より優れる。

(b) 化学調味料は風味に於いて天然の調味料に/より劣る。

また、ニはニ較ベ(テ)、ニ比シ(テ)、ニ比較シ(テ)で置き換えられることがある。

(a) 天然の調味料は化学調味料に較べて風味で勝る。

(b) 化学調味料は天然の調味料に比し風味で劣る。

1.4 ガヨリ・ガヨリ型 (AガBヨリ → BガAヨリ)

AガBヨリ→BガAヨリという対称型反転がある(表9)。

- 14(a) 花子が太郎より太っている。
- (b) 太郎が花子より痩せている。

表9 「太る」「痩せる」の支配図

	A	B
(a) 太る	ガ	ヨリ
(b) 痩せる	ヨリ	ガ

(a)「太る」は、A(主に人・動物)がB(主に人・動物)に比較して、体の肉付きがよくなることを表す。(b)「痩せる」はその反義語であるが、反転語でもある。通常、(a)(b)共、テ形+イルのかたちで用いられる。

2. 非対称型

2.1 ガヲ・ガニ型 (AガBヲ → BガAニ)

AガBヲ → BガAニという反転のタイプがある。「つかまえる」「つかまる」(表10)は「支配する」「従属する」(表2)と同様このタイプに属する。

- 15(a) 警察が誘拐犯人を事件後ただちにつかまえた。
- (b) 誘拐犯人が警察に事件後ただちにつかまった。

表10 「つかまえる」「つかまる」の支配図

	A. とりおさえる人	B. とりおさえる対象
(a) つかまえる	ガ	ヲ
(b) つかまる	ニ	ガ

類例として16(a)(b)のような例が挙げられる。

- 16(a) 太郎が花子をめとった。
- (b) 花子が太郎にとついだ。

2.2 ガヲ・ガデ型(AガBヲ → BガAデ)

AガBヲ→BガAデという反転のタイプがある(表11)。BガAデはBガAカラと交替できる。

- 17(a) その物質はタバコモザイクウイルスを構成する。
 (b) タバコモザイクウイルスはその物質で成り立つ。

表11 「構成する」「成り立つ」の支配図

	A. 要素	B. 全体
(a) 構成する	ガ	ヲ
(b) 成り立つ	カラ/デ	ガ

2.3 ガヲ・ガカラ型 (AガBヲ→BガAカラ)

AガBヲ→BガAカラという反転のタイプがある(表11)。BガAカラはBガAデと交替できる。

- 18(a) その物質はタバコモザイクウイルスを構成する。
 (b) タバコモザイクウイルスはその物質から成り立つ。

V. 主・脇転換

1. 対称型

1.1 ガヲニ・ガヲニ型 (AガBヲCニ→CガBヲAニ)

AガBヲCニ→CガBヲAニという反転のタイプがある。(b)「借りる」がCガBヲAニという支配を行う時、(a)「貸す」を出だし語にしての反転はこのタイプとなる(表12)。

- 19(a) 花子は太郎に本を貸した。
 (b) 太郎は花子に本を借りた。

表12 「貸す」「借りる」の支配図

	A. 貸し手	B. 貸借対象	C. 借り手
(a) 貸す	ガ	ヲ	ニ
(b) 借りる	ニ/カラ		ガ

2. 非対称型

2.1 ガヲニ・ガヲカラ型 (AガBヲCニ→CガBヲAカラ)

AガBヲCニ→CガBヲAカラという非対称型の反転タイプがある。(a)「預ける」(b)「預かる」はこのタ

イプに属する(表3)。

このタイプはAガBヲCニ → CガBヲAニ/カラという反転のバリエーションとしても存在する(表12)。

- 20(a) 花子は太郎に金を与えた。
- (b) 太郎は花子から金を受け取った。

2.2 ガヲニデ・ガヲカラデ型 (AガBヲCニDデ → CガBヲAカラDデ)

- 21(a) 花子が太郎に1,000円で時計を売った。
- (b) 太郎が花子から1,000円で時計を買った。

(a)(b)共に売り手が買い手から代価を得て商品の所有権を移動させることを表わす。事柄は、A.「売り手」、B.「売り物」、C.「買い手」、D.「値段」によって成り立つ。値段も必須の登場者である。値段がない場合、(a)(b)の事柄は成立しないからである。(a)ではAがガ格、Bがヲ格、Cがニ格、Dがデ格に立つが、(b)ではCがガ格、Bがヲ格、Aがカラ格、Dがデ格に立つ(表13)。

表13 「売る」「買う」の支配図

	A. 売り手	B. 売り物	C. 買い手	D. 値段
(a) 売る	ガ	ヲ	ニ	デ
(b) 買う	カラ		ガ	

ガ格・ヲ格・ニ格ないしカラ格・デ格を支配する動詞において、ガ格に立つ語を第1補語、ヲ格に立つ語を第2補語、ニ格ないしカラ格に立つ語を第3補語、デ格に立つ語を第4補語と定め、第1補語になるものは主役として第1位、第2補語になるものは相手役として第2位、第3補語になるものは脇役₁として第3位、第4補語になるものを脇役₂として第4位を与えると、(a)の登場者の格付けはABCDとなり、(b)のそれはCBADとなる。

「反転の縁」の表記に反映させると、「売る・買う」の反転は「[反転CBAD] 売る(ABCD)=買う」と表現される。

登場者は4項あるが、反転の様子はBを軸にしてのABの転換であり、今まで検討してきたものと類型は同じである。Dは(a)(b)に単に付加されるものに過ぎない。よって、付加反転型に分類される。

VI. 相・脇転換

1. 対称型

今のところ、該当するタイプの例が見つかっていない。

2. 非対称型

ガヲニ・ガヲデ型 (AガBヲCニ→AガCヲBデ)

AガBヲCニ→AガCヲBデという反転のタイプを認めておきたい。「振舞う」「もてなす」は、「掛ける」「覆う」(表4)と同様、このタイプに属すると思われる。

- 22(a) 花子が太郎に酒を振舞った。
- (b) 花子が太郎を酒でもてなした。

以上、動詞による反転のタイプを一覧にすると次の表14のようになる。⁵⁾

表14 反転のタイプ

		型	純粋反転	型	付加反転					
主・相転換	対称型	ガヲ	上まわる	A _ガ B _ヲ ↙ ↘ ▲ ▲						
		ガヲ	下まわる	B _ガ A _ヲ ▲ ▲ ↘ ↙						
		ガニ	先立つ	A _ガ B _ニ ↙ ↘ ▲ ▲			ガニデ	勝つ	A _ガ B _ニ C _デ ↙ ↘ ↘ ▲ ▲ ▼	
		ガニ	遅れる	B _ガ A _ニ ▲ ▲ ↘ ↙						負ける
	ガヨリ	太る	A _ガ B _{ヨリ} ↙ ↘ ▲ ▲							
	ガヨリ	痩せる	B _ガ A _{ヨリ} ▲ ▲ ↘ ↙							
	非対称型	ガヲ	支配する			A _ガ B _ヲ ↙ ↘ ▲ ▲				
		ガニ	従属する			B _ガ A _ニ ▲ ▲ ↘ ↙				
		ガヲ	構成する			A _ガ B _ヲ ↙ ↘ ▲ ▲				
			成り立つ			B _ガ A _ヲ ▲ ▲ ↘ ↙				
ガヲ		構成する	A _ガ B _ヲ ↙ ↘ ▲ ▲							
		成り立つ	B _ガ A _{カラ} ▲ ▲ ↘ ↙							
主・脇転換	対称型	ガヲニ	教える			A _ガ B _ヲ C _ニ ↙ ↘ ↘ ▲ ▲ ▲	ガヲニデ ガヲカラデ		売る	A _ガ B _ヲ C _ニ D _デ ↙ ↘ ↘ ↘ ▲ ▲ ▲ ▼
		ガヲニ	教わる			C _ガ B _ヲ A _ニ ▲ ▲ ▲ ↘ ↙ ↘				
	非対称型	ガヲニ	預ける	A _ガ B _ヲ C _ニ ↙ ↘ ↘ ▲ ▲ ▲						
		ガヲカラ	預かる	C _ガ B _ヲ A _{カラ} ▲ ▲ ▲ ↘ ↙ ↘						
相・脇転換	対称型	ガヲニ	掛ける	A _ガ B _ヲ C _ニ ↓ ↙ ↘ ▲ ▲ ▲						
		ガヲデ	覆う	A _ガ C _ヲ B _デ ▲ ▲ ▲ ↓ ↘ ↙						

5) 無論、調査が深められれば、さらに多様なタイプが見出される可能性がある。

VII. 文法的手段による反転-受動態

受動態は、文法的に、つまり規則的に反転語をつくりだす。

- 23(a) 花子が太郎をいじめた。
 (b) 太郎が花子にいじめられた。

(a)「いじめる」はAガBヲ、(b)「いじめられる」はBガAニという反転を示す。主・相転換の非対称型の反転(AガBヲ→BガAニ)である(表15)。

表15 「いじめる」「いじめられる」の登場者と役割

	登場者	A.苦しめる強者	B.苦しめる対象たる弱者
(a) いじめる -能動態形-	格助詞	ガ	ヲ
	文での役割	第1補語	第2補語
	役割	主役	相手役
(b) いじめられる -受動態形-	格助詞	ニ	ガ
	文での役割	第2補語	第1補語
	役割	相手役	主役

VIII. 韓国語の反転語との比較

ここでは日本語の動詞の反転のタイプ(表14)を指標にして、韓国語の場合について検討してみることにする。

村木(1991)は、「動詞がいくつかの名詞の格を支配するという現象は、動詞のもつ意味すなわち内容の結合能力にもとづいている」(p.147)と述べているが、それは韓国語動詞の場合も同様に考えられる。従って、韓国語と日本語において意味的に対応する動詞の場合、支配する意味論的な格の数は同じであり、反転語に見られる役割(主役・相手役・脇役)の転換のタイプも同じであるという仮説が立てられよう。ただ意味論的な格を表す格助詞の使い方には多かれ少なかれ相違点はあると予測される。表14に示された日本語動詞の反転のタイプに照らし合わせた韓国語動詞による反転のタイプをまとめると次の表16のようになる。

表16 日韓両語の反転のタイプ

		日本語(J)	韓国語(K)
主・相 転換	対 称 型	① ガヲ(上まわる) ガヲ(下まわる)	① -가 -을[/에/보다] (웃들다) ⁶⁾ -가 -을[/에/보다] (밧들다)
		② 가니/ヨリ(先立つ) 가니/ヨリ(遅れる)	② -가 -에/에게/보다[/을] (앞서다) -가 -에/에게/보다 (뒤지다)
		③ 가ヨリ(太る) 가ヨリ(瘦せる)	③ -가 -보다 (살찌다) -가 -보다 (마르다)
	非 対 称 型	④ 가ヲ(支配する) 가니(従属する)	④ -가 -을 (지배하다) -가 -에/에게 (종속되다)
		⑤ 가ヲ(構成する) 가데(成り立つ)	⑤ -가 -을 (구성하다) -가 -으로 (구성되다/성립되다)
		⑥ 가ヲ(構成する) 가카라(成り立つ)	⑥ -가 -을 (구성하다) -가 -으로 (구성되다/성립되다)
主・脇 転換	対称型	⑦ 가ヲ니(教える) 가ヲ니(教わる)	⑦ -가[/께서] -을 -에게 (가르치다) -가 -을 -에게 [에게서/에서/께] (배우다)
	非対称型	⑧ 가ヲ니(預ける) 가ヲ카라(預かる)	⑧ -가 -을 -에/에게 (맡기다) -가 -을 -로부터[/에게서] (맡다)
相・脇 転換	非対称型	⑨ 가ヲ니(掛ける) 가ヲ데(覆う)	⑨ -가 -을 -에 (덮다/씌우다) -가 -을 -로 (덮다/씌우다)

1. 主・相転換

1.1 対称型

① J : 가ヲ(上まわる)・가ヲ(下まわる)

K : -가 -을[/에/보다] (웃들다)・-가 -을[/에/보다] (밧들다)

24(a) 여학생 수가 처음으로 남학생 수를 웃들었다.⁷⁾

(b) 남학생 수가 처음으로 여학생 수를 밧들었다.

相手役に付く格助詞として、「을(ヲ)」の他に次の25-1~3のように、「에(ニ)/보다(ヨリ)」も使われる。

6) 韓国語の表記に当たっては便宜上、主格助詞の「-이/가」の中で「-가」を、対格助詞の「-을/를」の中で「-을」を代表形にすることにする。また、[]内は、日韓両語において対応する格助詞以外に交替できる格助詞を示す。

7) 以下、挙げている用例は 국립국어연구원(1999)『표준국어대사전』、서정수(1996)、이익섭外(1999)などから借用したものである。ただし、必要に応じて若干添削、変更を行なった場合もある。

- 25-1. 이번 출품작들은 대체로 평균 수준에 웃도는 것들이었다.
- 2. 그들이 제시한 금액은 우리의 예상보다 조금 웃도는 수준이었다.
- 3. 올해 쌀 수확량이 평년작에 빚돌았다.

② J : 가니/요리(先立つ)·가니/요리(遅れる)

K : -가 -에/에게/보다[을] (앞서다)--가 -에/에게/보다 (뒤지다)

- 26-1(a) 공부로는 영희가 철수에게 앞서는 것 같다.
- (b) 공부로는 철수가 영희에게 뒤지는 것 같다.

相手役に付く格助詞として「에(=)/에게(=)」の他に、次の26-2のように、「보다(ヨリ)」も使われるのは日本語と同じである。

26-2. 그는 선생님보다 서너 걸음 뒤져 걸었다.

ところで、日本語の「=」相当の「에/에게」の使い分けは、前の名詞が無情か有情かによる。つまり、次の例 26-3~4のように、無情の場合(나라:国)は「에」、有情の場合(사람:人)は「에게」が使われる。⁸⁾

26-3. 우리나라의 기술 수준이 다른 나라에 크게 앞서는 형편이 아니다. (표준중:4109)

4. 그의 업무 처리 능력은 결코 다른 사람에게 뒤지지 않는다.

ただし、次の26-1'(a)(b)のように、「앞서다(先立つ)」は相手役の名詞を格助詞「을(ヲ)」をとって表すことができるのに対して、「뒤지다(遅れる)」は「을(ヲ)」をとって表すことができない点で異なる。こうなると、対称型でなくなることが注目される。

26-1'(a) 공부로는 영희가 철수를 앞서는 것 같다.

(b) 공부로는 철수가 영희를 뒤지는 것 같다.(*)

③ J : 가요리(太る)·가요리(瘦せる)

K : -가 -보다 (살찌다)--가 -보다 (마르다)

- 27(a) 철수가 영희보다 살췌다.
- (b) 영희가 철수보다 말랐다.

8) 이의섭外(1999,p.179)は、「에」は無物に、「에게」は有情(特に‘人’)に使われ、同じ意味を持ちながら相補的分布の関係にあり、一形態素の異形態と見なされると述べている。

1.2 非対称型

④ J : ガヲ(支配する)・ガニ(従属する)

K : -가 -을 (지배하다)·-가 -에/에게 (종속되다/지배받다)

28(a) 보통 열강이 약소국가를 지배한다.

(b) 보통 약소국가는 열강에 종속된다/지배받는다.

29(a) 보통 강자가 약자를 지배한다.

(b) 보통 약자는 강자에게 종속된다/지배받는다.

ここでも前述したように、「에/에게」の使い分けは、前の名詞が無情(열강:列強)か有情(강자:強者)かによる。「종속되다(従属する)」の他に、「지배하다(支配する)」の受動態形の「지배받다(支配される)」も多く使われる。

⑤、⑥ J : ガヲ(構成する)・ガデ/[カラ](成り立つ)

K : -가 -을 (구성하다)·-가 -으로 (성립되다/구성되다)

30(a) 대법원장과 대법관이 대법원을 구성한다.

(b) 대법원은 대법원장과 대법관으로 구성된다/성립된다.

日本語の「デ」「カラ」は共に韓国語の「으로」に対応する。この場合も受動態形の「구성되다(構成される)」も多く使われる。

2. 主・脇転換

2.1 対称型

⑦ J : ガヲニ(教える)・ガヲニ(教わる)

K : -가[께서] -을 -에게 (가르치다)·-가 -을 -에게[에게서/에서/께/한테서] (배우다)

31-1(a) 그는 그녀에게 운전을 가르쳤다.

(b) 그녀는 그에게(서) 운전을 배웠다.

「배우다(教わる)」は、脇役に付く格助詞として「에게」の他にも「에게서/에서/께」が使われる。次の31-2~3のように、「에게(서)」は脇役に立つ名詞が有情(외국인:外国人)、「에서」は無情(학원:塾)の場合に限られる。

31-2. 그는 한국에 온 외국인에게서 외국어를 배웠다.

3. 그는 학원에서 운전 기술을 배웠다.

その他に、次の例のように「한테(서)」も使われるが、話し言葉的である。

31-4. 그는 아버지한테서 술을 배웠다.

また「-께서(ガ) 가르치다(教える)」と「-께(ニ) 배우다(教わる)」は尊敬の対象としての名詞が来る場合に限られる。

31-5. 선생님께서 학생에게 정확한 발음법을 가르쳤다.

6. 학생이 선생님께 정확한 발음법을 배웠다.

2.2 非対称型

㉔ J : 가라니(預ける)·가라카라(預かる)

K : -가 -을 -에/에게 (맡기다)·-가 -을 -로부터[에게(서)] (맡다)

32-1(a) 그는 물건을 전당포에 맡기고 돈을 빌렸다.

(b) 전당포는 그로부터 물건을 맡고 돈을 빌려줬다.

32-2(a) 손님이 주차요원에게 차 열쇠를 맡겼다.

(b) 주차요원이 손님에게(서) 차 열쇠를 맡았다.

「맡기다(預ける)」の場合、脇役に立つ名詞が無情の時は「에」、有情の時は「에게」が使われる。「맡다(預かる)」の場合は、脇役に付く格助詞として「-로부터」の他にも「에게(서)」が使われる。

3. 相・脇轉換

非対称型

㉕ J : 가라니(掛ける)·가라데(覆う)

K : -가 -을 -에/에게 (덮다/씌우다)·-가 -을 -로 (덮다/씌우다)

33-1(a) 그는 이불을 머리에 덮고서는 마구 울었다.

(b) 그는 머리를 이불로 덮고서는 마구 울었다.

- 33-2(a) 납치범들은 인질에게 복면을 씌웠다.
 (b) 납치범들은 인질을 복면으로 씌웠다.

相手役に付く格助詞として「에」は無情(머리:頭)に、「에게」は有情(인질:人質)に使われる。この場合は韓国語も日本語と同様役割の転換は起こるが、動詞の変化は見られず、「덮다·덮다」「씌우다·씌우다」のように同形の動詞が使われ、反転語を作らないのが興味深い。

IX. おわりに

以上、予備的調査ではあるが、韓日両語における動詞の反転語を比較した結果、次のように微妙な点でいくつかの相違が認められた。

・役割の転換のタイプが同じであっても、各役割の名詞に付く格助詞の種類と数は若干異なる。特に日本語の「ニ」相当の韓国語の格助詞は、前の名詞が無情か有情かによって「에」と「에게」のように使い分けされる。また日本語では対称型の反転語が、韓国語では非対称型の反転語である場合(26-1'(a)(b)参)がある。

・反転語を作る動詞の対が派生関係にある場合とそうでない場合がある。例えば、「預ける:預かる」は韓国語でも「맡기다:맡다」の対で反転語を作り、派生関係にある動詞の対が反転語を作る前者の場合である。それに対し「教える:教わる」の場合は韓国語では「가르치다:×」のように派生関係にある動詞の対を持たず、別の動詞「배우다」と反転語を作る。

・両語において役割の転換が起こることでは共通していても、例えば韓国語の「덮다·덮다」「씌우다·씌우다」のように、同形の動詞が使われる場合がある。

【参考文献】

- 국립국어연구원(1999)『표준국어대사전』두산동아
 서정수(1996)『국어문법』(수정증보판)한양대학교출판원
 서태룡外(1998)『문법연구와 자료』태학사
 윤상실訳(2001)『일본어의 연-구조어휘론의 시도-』박이정
 이익섭外(1999)『국어문법론강의』학연사
 秋元美晴(2002)『よくわかる語彙』アルク
 城田俊(1991)『ことばの縁-構造語彙論の試み-』リベルタ出版
 _____(1998)『日本語形態論』ひつじ書房
 西尾寅弥(1988)『現代語彙の研究』明治書院
 仁田義雄(1981)『語彙論的統語論』明治書院

姫野昌子外(2005)『現代日本語の様相』放送大学教育振興会

村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房

森田良行外(編)(1998)『ケーススタディ日本語の語彙』桜楓社

尹相実・城田俊(2008)「日本語の「反義語」考」『日語日文学研究』 67-1

I.A.Mel'chuk, A.K.Zholkovsky, EXPLANATORY COMBINATORIAL DICTIONARY of MODERN RUSSIAN. Wiener
Slawistischer Almanach Sonderband 14, Vienna 1984

〈 요 지 〉

한일 양어의 「反轉語」 고찰

「教える：教わる」와 같이, 나타내는 사항은 같으나 등장자의 역할에 전환이 일어나는 것을 反轉語라고 한다. 反轉에는 등장자인 주역(主役)·상대역(相手役)·조역(脇役)간의 전환 타입에 따라 主·相轉換, 主·脇轉換, 相·脇轉換이 있다.

主·相轉換이란 「支配する：従属する」에서 볼 수 있듯이, (a)출발어인 주역이 (b)의 상대역으로, (a)의 상대역이 (b)의 주역으로 전환되는 것을 말하며, 主·脇轉換이란 「預ける：預かる」에서 볼 수 있듯이, (a)출발어인 주역이 (b)의 조역으로, (a)의 조역이 (b)의 주역으로 전환되는 것을 말한다. 또한 相·脇轉換이란 「掛ける：覆う」에서 볼 수 있듯이, (a)출발어인 상대역이 (b)의 조역으로, (a)의 조역이 (b)의 상대역으로 전환되는 것을 말한다.

反轉의 연(緣)으로 맺어지는 2語가 양쪽 모두 동일한 격조사를 취할 경우, 예를 들면 「上まわる：下まわる」와 같이 A가B가가 B가A가로 변하는 경우 그 反轉을 대칭형(対称型)이라 부른다. 또한 일부에서 다른 격조사를 취하는 경우, 예를 들면 「支配する：従属する」와 같이 A가B가가 B가A가로 변하는 경우, 그 反轉을 비대칭형(非対称型)이라 부른다. 이렇게 해서 主·相轉換의 대칭형과 비대칭형, 主·脇轉換의 대칭형과 비대칭형, 相·脇轉換의 비대칭형의 타입이 인정되는 데, 이에 입각하여 실행한 한일 양어의 反轉語 비교 결과는 다음과 같이 요약된다.

- 역할의 전환 타입이 같아도 각 역할 명사에 붙는 격조사의 종류와 수는 약간 다르다. 또한 일본어에서는 대칭형의 反轉語가 한국어에서는 비대칭형의 反轉語가 되는 경우가 있다.
- 의미적으로 대응되는 동사 反轉語의 경우, 일본어에서는 파생관계에 있는 동사끼리 反轉語를 만드는 것에 대해, 한국어에서는 그렇지 않은 경우가 있다.
- 한일 양어에서 역할의 전환이 일어나는 점에서 공통되어도, 예를 들면 한국어의 「뒹다뒹다」 「씩우다씩우다」와 같이 동형(同形)의 동사가 사용되는 경우가 있다.

▣ 윤상실(尹相實)

명지대학교 일어일문학과 교수
mjyss@mju.ac.kr

▣ 시로타슌(城田俊)

獨協大学 名譽教授
shirodashun@jcom.home.ne.jp

- 投稿日：2008年 12月 22日
- 審査開始：2009年 1月 16日
- 審査完了：2009年 2月 6日